

新技術 解説

アライグマ専用捕獲器の開発

埼玉県農業技術研究センター 小川 とも 倫 史

はじめに

アライグマは、1990年代半ばには、主に北海道の札幌周辺、愛知・岐阜・長野の県境地帯、単発的に宮城・神奈川・山梨・静岡・京都・兵庫・岡山の7府県で分布情報が得られていたが、2006年には、四国・九州を含む36都道府県で分布が確認され、特に北海道・関東・中京・近畿・九州北西部に分布が集中し、全国的に増加傾向となっている（環境省、2014）。また、2005年に特定外来生物に指定されたことにより、2010年には25,000頭が捕獲されたが、生息数を減少させるためには増加数以上に捕獲数を増加させる必要がある（環境省、2014）。多くの捕獲器が設置されているにもかかわらず、捕獲数が増加数のスピードに追いついていない原因の一つにネコ、タヌキ等が誤って捕獲されてしまう錯誤捕獲があげられる。アライグマの対策に苦慮している地域では、効率的に捕獲できて錯誤捕獲を発生させない専用の捕獲器の開発が求められている。

アライグマに特化した捕獲器としては、エッグトラップ（Egg™ Trap, THE EGG TRAP COMPANY製、阿部ら、2006）があげられるが、その設置に手間がかかること、捕獲されたアライグマの保定に手間がかかること、法定猟具として認定されていない等の問題がある。

そこで、アライグマと錯誤捕獲されるタヌキ・ネコ等の行動特性の違いを明らかにし、アライグマだけに作動する新しい「筒式トリガー」を開発した。米国製のアライグマ捕獲器を改良し「筒型トリガー」を使用した捕獲器が既に紹介されている（環境省近畿地方環境事務所、2008；山崎・佐伯、2010）が、新しい「筒式トリガー」を使用することにより、アライグマを二足起立させた状態で捕獲できるため、捕獲器の奥行きを短くすることが可能になった。この技術を使い問題となっている錯誤捕獲の解消と、コンパクト化を実現した捕獲器を、（有）栄工業（新潟県）と共同開発したので紹介する。

Development of Special Trap for the Raccoon, *Procyon lotor*.

By Tomofumi OGAWA

（キーワード：アライグマ、錯誤捕獲、捕獲器）

I 専用トリガーの開発

アライグマは前肢を手のように使い、狭い隙間などの奥にあるエサを取ることができる（自然環境研究センター、2008）。この行動は、アライグマが持つ特徴的な行動である。今回開発した専用の「筒式トリガー」は、その特異な行動を利用したもので、アライグマだけが作動させることができる。実験は、筒（直径5cm、塩化ビニル製）の内部に設置したトリガーの位置を変えながら、錯誤捕獲が発生しない位置を測定した（図-1）。実験の結果、タヌキ、ハクビシン、テンは前肢を深く挿入しないが、ネコ、アナグマは16cmまで達した。17cmを超えるのはアライグマだけであったため、前肢挿入口



図-1 前肢到達位置の測定（アライグマ）

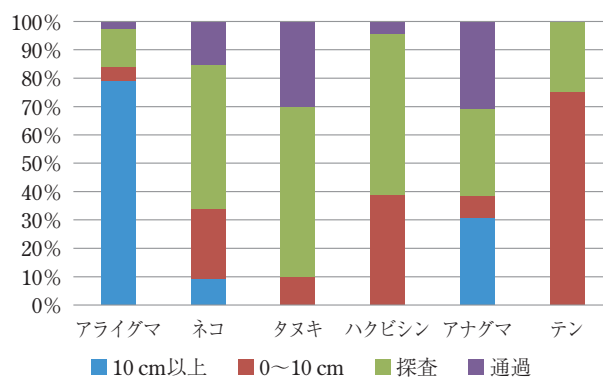


図-2 実験用トリガーによる前肢挿入口からの前肢挿入到達位置測定結果（鼻、首まで挿入も含む）